

平成22年度 報告書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

—the 100th anniversary—

確かな技術で ものづくり まごころこめて次の世紀へ



株式会社 **サノヤス・ヒシノ明昌**

証券コード: 7020

「創業第二世紀」を迎えて



代表取締役社長 上田 孝

このたびの東日本大震災により被害を受けられた被災者の皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

当社は創業以来、『まごころこめて生きた船を造る』という理念のもと、造船事業を通じて世界の海上物流を支える、安全で品質・性能に優れた船舶を提供してまいり、本年4月、創業100周年を迎えることができました。幾多の荒波に直面しながらも今日に至ることができたのは、偏に株主の皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

そして、「創業第二世紀」において持続的発展を図るため、持株会社の設立による組織再編を行うこととし、連結経営のレベルアップと、それぞれの事業に最適なビジネスモデルの構築を進めていきたいと考えています。

東日本大震災による日本経済への影響もあり、経営環境は「不確実・不透明・不安定」で「変化が常態化」していると言えますが、こうした変化に機敏に対応できる力を付け、「創業第二世紀」を着実に力強く歩んでまいります。

3つのポイント

1

船舶部門が受注を再開するも、
業績は前期比減収減益に

2

創業第二世紀ビジョン
《New Sanoyas Corporate Vision》を制定

3

持株会社化・分社化による組織再編により、
連結経営のレベルアップへ

船舶部門が受注を再開するも、 業績は前期比減収減益に

船舶部門は、平成20年秋のリーマン・ショック以降、新造船の新規商談が停滞していましたが、今年度ようやく受注再開の動きが始まりました。環境及び省エネに対応した新83千重量トン型のパナマックス・バルクキャリアと新開発の104千重量トン型省エネ石炭船を中心とした営業に注力し、6隻受注いたしました。その結果、現在約3年分の安定した手持ち工事を確保しております。

一方、陸上部門（陸機部門及びその他の部門）では、顧客ニーズに即した新商品の開発と営業に注力しましたが、国内の設備投資や個人消費の低迷により、引続き厳しい状況となりました。また、豪州観覧車の保証工事引当金の追加計上により、営業損失を計上しており、当該保証工事は最大の経営課題の一つとして、適切に取り組んでまいります。

このような経営環境の中、今年度は工事進行基準のみの売上計上となったため、当社グループの売上高は698億71百万円（前期比24.0%減）、経常利益は37億51百万円（前期比29.4%減）、当期純利益は14億92百万円（前期比50.0%減）となり、前期比で減収減益となりました。

創業第二世紀ビジョン 《New Sanoyas Corporate Vision》を制定

さて、当社では創業100周年を記念し、これを機に「新シンボルマーク」を制定し、また「100周年記念スローガン」を新たに決めました。

まず、コミュニケーションネームとして「Sanoyas」

を制定し、シンボルマーク（社章）を新たにいたしました。新社章は「Sanoyas」を中央に配し、「メタリックシルバーとマリンブルー」の「二つの卵型」で構成されています。金属的な質感のメタリックシルバーは技術力を、マリンブルーは海を表し、二つに重なった卵型は当社の二つのコア事業である船舶事業と陸上事業を表しています。卵は生命の誕生を象徴し、「まごころこめて生きた船を造る」という当社の原点、創業以来の「ものづくり」に懸ける理念を形にしたもの、また卵が少し頭を持ち上げたしなやかなフォルムは、時代の変化に柔軟に対応し未来へ飛躍しようとする願いを込めたものです。

また、100周年記念スローガンとして『確かな技術でものづくり まごころこめて次の世紀へ』を掲げました。これは全役職員から募集し、選んだものです。

当社は「新シンボルマーク」や「100周年記念スローガン」に込められた思い、即ち「お客様にご評価いただける確かな技術力をベースに、まごころこめて、品質・性能に優れた製品・サービスを継続的に提供すること」により、「船舶・陸上の二本柱を進化させ成長・拡大を目指していくこと」を《New Sanoyas Corporate Vision》と定め、「創業第二世紀」を着実に力強く歩んでまいりる覚悟を新たにしている次第です。

持株会社化・分社化による組織再編により、連結経営のレベルアップへ

当社グループが「創業第二世紀」において持続的発展を図るためには、当社本体と子会社・関連会社に分かれた組織体制を一新し、連結経営のレベルアップを図ることが必

要だと判断いたしました。そこで、持株会社（サノヤスホールディングス株式会社）を設立し、その傘下に4つのグループを設定、個別事業ごとに分社した各事業会社と既存の子会社等を同列に配置した組織に再編することといたしました。具体的には次のような狙いを実現しようとするものです。

1. 連結経営のレベルアップ

当社グループの事業は大きく分けて船舶と陸上に分かれています。かつて10年ほど前は船舶事業が低迷し陸上事業が会社の業績を支えるという時代がありました。その後、船舶事業は業績を伸ばした一方、当社単体の陸上事業は下降傾向に歯止めがかからず、今年度はついにグループ子会社の陸上事業売上にほぼ並ぶレベルとなりました。当社単体では船舶事業の商売が大きいこともあり、ビジネスの発想がどうしてもそちらに引っ張られてしまいます。独立した子会社が苦勞しながらも業績を伸ばしてきたことから見て、事業内容等にふさわしい経営の

やり方があるはずで、それぞれのマーケットに最適なビジネスモデルを構築することが必要だと考えています。

まず、事業グループとして、造船、陸上、レジャー、サービス事業の4つを設定し、そこに本体の各事業を分社した会社と、既

存の子会社等を並列に配置します。これらの事業会社は、それぞれの事業に最適なビジネスモデルを構築、洗練し、独立採算による責任権限の明確化・意思決定の迅速化と、事業特性に応じたリスク管理力の強化を図ります。持株会社は、各事業グループを担当する役員を置き、事業グループ内における会社間の商品サービスのクロスセル等、シナジー効果の創出によって、事業グループ全体、ひいては当社グループ全体の収益力の強化を図ります。

2. 持株会社によるグループ経営管理の均質化とガバナンスの徹底

持株会社に期待される役割は、本体から分かれた事業会社と既存の子会社等に対する経営管理を均質化すると同時に、各事業会社の経営意思決定に関するガバナンスを徹底することであり、これによって、連結経営の基盤を強固なものにできると考えています。

3. M&Aを含めた新規事業展開への戦略的対応

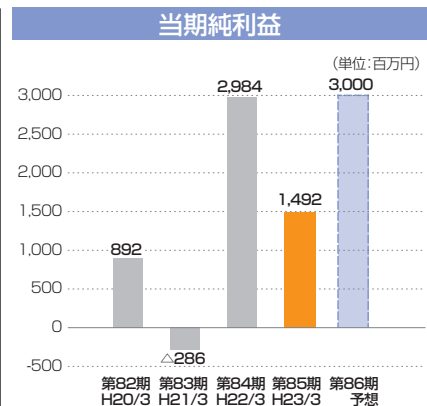
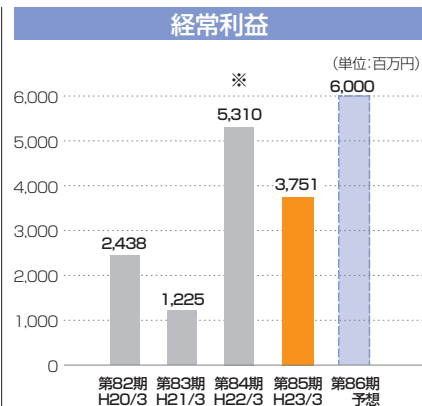
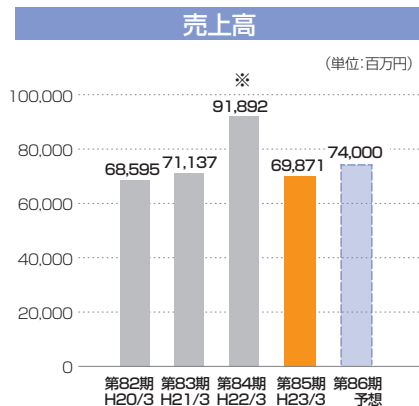
当社グループ内での事業展開の強化拡充に加え、M&Aを含めた新規事業展開を図ります。持株会社傘下での分社体制は、こうした外部成長の機会を捉え、既存事業とのシナジー効果を図りながら、新規事業や新規に取得した企業をグループ内に早期定着させるのに最適の組織形態であり、戦略的な備えを行うものです。

「創業第二世紀」も、当社は多くのパートナー（ステークホルダー）の皆様とともに成長し、その満足度を極大化していく「良い会社（Good Company）」を造り上げるため、チャレンジを続けてまいります。株主・投資家の皆様には、より一層のご理解ご支援を賜われますよう心よりお願い申し上げます。



(単位：百万円)

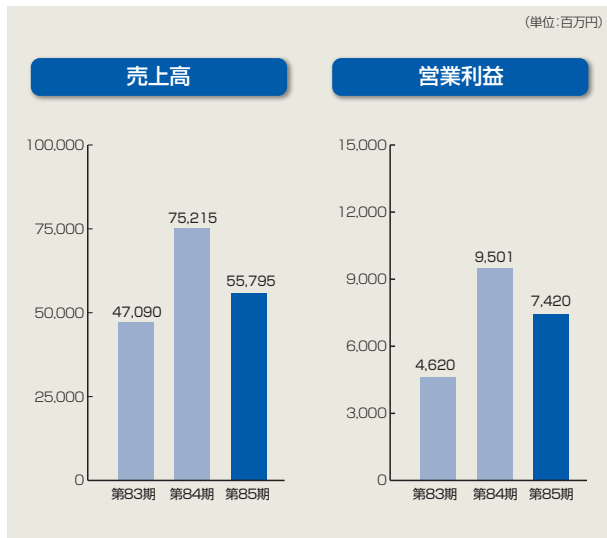
	第82期 平成20年3月	第83期 平成21年3月	第84期 平成22年3月	第85期 平成23年3月
経営状態				
売上高	68,595	71,137	91,892	69,871
経常利益	2,438	1,225	5,310	3,751
当期純利益 又は当期純損失(△)	892	△286	2,984	1,492
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)(円)	27.38	△8.80	91.62	45.81
財政状態				
総資産	77,479	83,940	85,733	77,124
純資産	12,023	10,376	13,609	14,518
その他指標				
自己資本比率(%)	14.3	11.3	15.0	17.7
ROE(%)	7.9	—	26.7	11.3



※第84期より、請負工事に係る収益の計上基準について、工事進行基準を適用しており、これにより第84期の売上高は25,051百万円、経常利益は5,062百万円それぞれ増加しております。

セグメント概況

船舶部門



工事進行基準の影響で売上・利益減少

当期は、厳しい受注環境の中、為替及び資機材価格動向を見極めつつ受注活動を行い、新開発の省エネ石炭船を含めバルクキャリアを6隻受注しました。新造船の引渡は、ハンディケープ・バルクキャリア2隻、パナマックス・バルクキャリア8隻、チップ船2隻の合計12隻であり、修繕船等を加えた当該部門の売上高は、前期までの工事完成基準での売上計上がなくなったことから557億95百万円(前期比25.8%減)、営業利益は、生産性向上による採算の改善もありましたが、売上高の減少に加え鋼材値上げと円高に伴い受注工事損失引当金を計上したことから74億20百万円(同21.9%減)となりました。

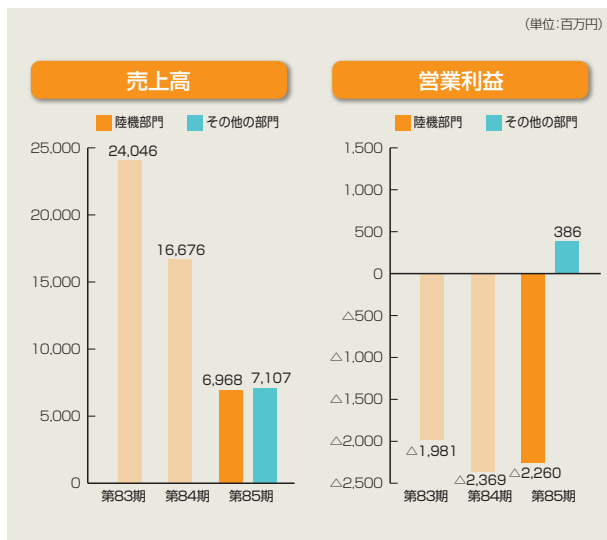


120千重量トン型
ハンディケープ・バルクキャリア
「NORD VELA」



村上秀造船向け「7,500㎡LPGタンク」
水島製造所にて搭載

陸機部門・その他の部門



「おさんぽぞうさん」 東条湖おもちゃ王国

コストダウンに取り組むも保証工事引当金計上響く 【陸機部門】

立体駐車装置、建設機械、遊戯機械の製造及び遊園地運営等を行う陸機部門においては、国内設備投資と個人消費の低迷に伴い当期末の受注残高は10億82百万円となりました。売上高は、設備投資の低迷から69億68百万円(前期比28.4%減)となりました。損益面は各種合理化によるコストダウンに取り組みましたが、豪州観覧車の保証工事引当金25億28百万円を計上したことから22億60百万円の営業損失(前期は23億25百万円の営業損失)となりました。

国内設備投資低迷のなか採算改善により利益増 【その他の部門】

主として連結子会社の事業である空調設備・給排水設備・環境衛生施設工事、機械部品製造、化粧品製造用機械製造等を行うその他の部門においては、国内設備投資の低迷に伴い当期末の受注残高は20億11百万円となりました。売上高は、機械部品製造等の増加により71億7百万円(前期比2.3%増)となりました。営業利益は、売上高の増加と採算の改善により前期比3億70百万円増加の3億86百万円となりました。

(注) 当期より事業セグメントを船舶部門、陸機部門、その他の部門に分けて開示しております。

連結財務諸表

連結貸借対照表

科 目	金 額 (単位：百万円)	
	前連結会計年度 (H22.3.31)	当連結会計年度 (H23.3.31)
資産の部		
流動資産	58,542	51,764
固定資産	27,191	25,360
有形固定資産	18,697	17,424
無形固定資産	646	620
投資その他の資産	7,847	7,315
資産合計	85,733	77,124

負債の部		
流動負債	51,585	44,586
固定負債	20,539	18,019
負債合計	72,124	62,605
純資産の部		
株主資本	11,581	12,910
資本金	2,538	2,538
資本剰余金	1,110	1,110
利益剰余金	7,942	9,272
自己株式	△9	△9
その他の包括利益累計額	1,245	751
その他有価証券評価差額金	1,210	751
繰延ヘッジ損益	34	－
少数株主持分	782	855
純資産合計	13,609	14,518
負債純資産合計	85,733	77,124

連結損益計算書

科 目	金 額 (単位：百万円)	
	前連結会計年度 (H21.4.1 ～H22.3.31)	当連結会計年度 (H22.4.1 ～H23.3.31)
売 上 高	91,892	69,871
売 上 原 価	82,140	61,811
売 上 総 利 益	9,752	8,060
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	4,288	4,186
営 業 利 益	5,463	3,873
営 業 外 収 益	356	278
営 業 外 費 用	509	399
経 常 利 益	5,310	3,751
特 別 利 益	143	44
特 別 損 失	343	948
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	5,110	2,847
法 人 税 等 合 計	2,226	1,335
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△100	19
当 期 純 利 益	2,984	1,492

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	金 額 (単位：百万円)	
	前連結会計年度 (H21.4.1 ～H22.3.31)	当連結会計年度 (H22.4.1 ～H23.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,563	245
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,259	△1,867
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,135	△2,605
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	25
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	10,449	△4,201
現金及び現金同等物の期首残高	21,828	32,278
現金及び現金同等物の期末残高	32,278	28,076

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
平成22年3月31日残高	2,538	1,110	7,942	△9	11,581
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△162		△162
当期純利益			1,492		1,492
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計	－	－	1,329	△0	1,329
平成23年3月31日残高	2,538	1,110	9,272	△9	12,910

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額			少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	その他の包括利益 累 計 額 合 計		
平成22年3月31日残高	1,210	34	1,245	782	13,609
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当					△162
当期純利益					1,492
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）	△458	△34	△493	73	△420
連結会計年度中の変動額合計	△458	△34	△493	73	909
平成23年3月31日残高	751	－	751	855	14,518

連結財務諸表の
ポイント

① 純資産

当期末における純資産は、前期末に比べて9億9百万円増加し、145億18百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が4億58百万円減少したものの、利益剰余金が13億29百万円増加したこと等によるものです。

一方、負債は前期末比95億18百万円減少しており、その結果、自己資本比率は前期末比2.7ポイント上昇し、17.7%となりました。

連結財務諸表の
ポイント

② 当期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題として認識しており、企業体質強化のための内部留保に努めながら、業績に対応し安定した配当を維持、継続することを基本方針としております。

当期の期末配当は、創業100周年を迎えましたことから、記念配当の1円を加え、1株当たり6円とさせていただきます。

会社情報

会社概要 (平成23年3月31日現在)

商号	株式会社サノヤス・ヒシノ明昌
住所	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号
創業	明治44年4月
設立	昭和15年6月25日
資本金	25億38百万円
従業員	従業員数709名 平均年令40.5才 平均勤続年数17.2年
主要な営業所	本社 大阪市北区中之島三丁目3番23号 営業所 東京支社(東京都港区)、大阪南支社(大阪市)、 仙台出張所(仙台市)
主要な工場	水島製造所(岡山県倉敷市)、大阪製造所(大阪市)、東京テクノセンター(千葉県成田市)、 広島工場(広島県東広島市)、九州工場(熊本県玉名郡)
主要な子会社	山田工業株式会社 [本社] 大阪市中央区道修町四丁目5番22号 ケーエス・サノヤス株式会社 [本社] 兵庫県三田市福島字宮野前501番地3 株式会社サノテック [本社] 大阪市住之江区北加賀屋五丁目2番7号 明昌ネットワーク株式会社 [本社] 大阪市住之江区北加賀屋五丁目2番7号 加藤精機株式会社 [本社] 大阪府豊中市上野西三丁目14番21号 みづほ工業株式会社 [本社] 大阪市西成区南津守四丁目4番16号

役員一覧 (平成23年6月28日現在)

取締役及び監査役

代表取締役会長	落合 諒
代表取締役	上田 孝
代表取締役	森本 武彦
代表取締役	中道 保信
代表取締役	竹原 久雄
代表取締役	浅間 成人
取締役	白神 敬治
取締役	大屋 雄次
取締役	悦勝 三治
取締役	篠原 照夫
取締役	北川 治之
常勤監査役	荻野 繁之

常勤監査役	桐野 恭至
監査役	森 薫生
監査役	平野 豊三郎

執行役員

社長執行役員	上田 孝
副社長執行役員	伊藤 隆章
副社長執行役員	森本 武彦
専務執行役員	中道 保信
専務執行役員	竹原 久雄
専務執行役員	浅間 成人
専務執行役員	白神 敬治
常務執行役員	大屋 雄次

常務執行役員	悦勝 三治
常務執行役員	篠原 照夫
常務執行役員	山本 周平
常務執行役員	衛藤 博司
執行役員	藤岡 和紀
執行役員	国原 康信
執行役員	村上 美紀
執行役員	小宮 雄守
執行役員	前野 嘉孝
執行役員	布施 俊博
執行役員	松本 裕之
執行役員	北川 治

株式情報 (平成23年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	120,000,000株
発行済株式の総数	32,600,000株
株主数	3,443名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
サノヤス・ヒシノ明昌共栄会	2,343,900	7.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・住友重機械工業株式会社退職給付信託口)	2,145,000	6.58
株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.37
ストラクス株式会社	1,402,000	4.30
三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.45
住友商事株式会社	1,000,000	3.07
住石マテリアルズ株式会社	920,000	2.82
住友金属工業株式会社	844,800	2.59
MORGAN STANLEY & CO. INC	824,699	2.53
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	762,100	2.34

(注) 持株比率は、自己株式
(22,265株)を控除して
計算しております。

TOPICS

創業100周年記念式典

当社は明治44年4月に佐野安造船所として創業以来、歴史を積み重ね平成23年4月をもって創業100周年を迎えました。4月1日に水島製造所において、4月2日に大阪地区及び東京地区において創業100周年を祝う記念式典が開催され、当社役職員のほか協力会社など延べ1,295名が参加しました。水島製造所での式典後には100周年を記念して、1,001名の出席者全員による「Sanoyas100」と描いた人文字の航空撮影を行いました。



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 当社のホームページに掲載
<<http://www.sanoyas.co.jp/publicnotice/>>
やむを得ない事由により電子公告ができない場合、
日本経済新聞に掲載

単元株式数 100株

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会
は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設さ
れていない株主様は、右記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 住友信託銀行株式会社証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社証券代行部

(電話照会先)  0120-176-417
(平日午前9時～午後5時)

(インターネットホームページ)

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>



株式会社 **サノヤス・ヒシノ明昌**

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

新シンボルマーク（社章）の制定



創業100周年を機に、コミュニケーションネームとして「Sanoyas」を設定するとともに、シン
ボルマーク（社章）を新たにいたしました。

生命の誕生を象徴する卵型は“まごころこめて生きた船を造る”という当社のものづくりに
懸ける理念を形にしたものであり、また少し頭を持ち上げたしなやかなフォルムは、絶え間なく
変化する時代に柔軟に対応し、未来へ飛躍しようという当社の願いが込められています。

